

第18回東北大学男女共同参画シンポジウム

「男女共同参画：男性の立場から」

日時：12月11日(土) 13:00～16:00
開催方法：オンライン 対象：どなたでもご参加いただけます

本シンポジウムでは、これまで女性の立場において女性の目線から、問題点や今後の課題等が語られることが多かった男女共同参画について、男性の立場から「男女共同参画」に関する課題を浮き彫りにし、男性にとっての男女共同参画を効果的に推進するための今後のあり方について考える機会とすることを目指します。ぜひご参加ください。

13:00 開会挨拶…大野 英男(総長)
来賓挨拶…林 伴子氏(内閣府男女共同参画局長)

13:10 第1部

「東北大学における男女共同参画の取組みについて」
講演者：田中 真美
(総長特別補佐(共同参画担当)、男女共同参画推進センター副センター長、大学院医学工学研究科、大学院工学研究科 教授)

「令和2年度東北大学の働き方調査」について
講演者：小川 真理子
(男女共同参画推進センター 准教授)

特別講演 「男女平等な社会の実現について：ジェンダー中立的立場からの実証的考察」
講演者：山口 一男氏
(シカゴ大学 ラルフ・ルイス記念特別社会学 教授)

14:25 第2部

パネリスト講演
左より：神谷 哲司(大学院教育学研究科 教授)、田名部 晃平(附属図書館 農学分館職員)、朱 慧娥(大学院工学研究科 助教)
コーディネーター：梅津理恵(金属材料研究所 教授・男女共同参画委員会委員)

パネルディスカッション
山口 一男氏、神谷 哲司、田名部 晃平、朱 慧娥
閉会挨拶…大隅 典子(副学長(広報・共同参画担当)・男女共同参画委員会委員長)

申込方法

◆事前登録制【12月8日(水)締切】
参加を希望される方は、右記QRコードより参加登録を行ってください。男女共同参画委員会のホームページからもリンクしております。

参加登録フォーム
男女共同参画委員会ホームページ

お問い合わせ先
東北大学人事企画部人事企画課
☎ 022-217-4811
✉ danjiyo@grp.tohoku.ac.jp
🌐 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjiyo/index3.html

第1回、第2回 TUMUGサロン オンライン「科研費セミナー」

女性研究者を対象とした科研費セミナーをオンラインで開催しました。第1回目は尾辻泰一教授(JSPS学術システム研究センター主任研究員(特命事項担当(科研費改革推進等))、電気通信研究所)、第2回目は佐藤嘉倫教授(JSPS学術システム研究センター主任研究員(社会科学専門調査班))を講師にお迎えし、科研費採択に向けての説明がありました。第1回目は関口仁子准教授(理学研究科)、田中真美教授(JSPS学術システム研究センター専門研究員(工学系科学専門調査班)、医工学研究科)、第2回目は久保野恵美子教授(法学研究科)、小川真理子准教授(男女共同参画推進センター)が話題提供者としてアドバイスや質問を行いました。第1回目は自然科学系の学内女性研究者を中心に47名、第2回目は人文・社会科学系の学内女性研究者を中心に39名の方々にご参加いただきました。

●第1回(生物・理工系)
日時：8月4日(水) 11:00～12:00
開催方法：オンライン

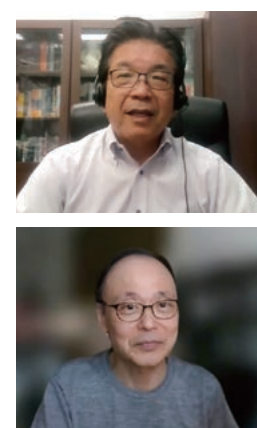
●第2回(人文・社会科学系)
日時：8月5日(木) 13:00～14:00
開催方法：オンライン

TUMUGメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか?

役員つ情報が満載の男女共同参画推進センター(TUMUG)のメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか? 当センターでは、支援制度やイベント最新情報等をメーリングリストでいち早くお届けしています。新規登録も随時受付中です。ぜひご登録ください!

対象 ▶ 本学に所属する教職員、大学院生、学部学生(性別不問)
登録方法 ▶ 右記QRコードよりご登録ください。

新規登録随時受付中



男女共同参画コラム

中秋の名月のころ...

多田千佳
農学研究科 准教授

男女共同参画推進センターより、コラムの依頼を受けて満月。遠吠えする犬のごとくなりけり。秋分の日、蔵王御釜に登った。強風のなか、御釜のエメラルドグリーンの姿が見えた。風に乗って次々と現われる雲が、荒々しい大地に模様をつくった。しばし、時間を忘れ、その様子に見入った。学問とは、このような姿を真摯に観察し、解き明かすものだと思う。大自然の中で、人間はちっぽけな生き物であり、また、この大地に暮らす他の動植物と同様に多様でもあり、はかなげでもあり、懸命に生きているにすぎない。「満月の遠吠え」は、どこかに消えた。私は、環境微生物の研究をやっている。先日、オンラインで京都大学生態学研究センターが主催するワークショップに参加した。微生物生態系を数理的に捉え、解き明かそうとする話をたくさん聞くことができた。微生物同士の相互作用や、生態系として落ち着いていく所、微生物生態系そのものを活用する視点など、どの研究者からも熱い思いが伝わった。今回、「微生物生態系」という共通キーワードがあったにしろ、様々な分野の人々が、オンラインで簡単につながって意見交換できたことは、まさに大学の姿のように思えた。学生のころ、微生物の培養が失敗すると、先生から「愛が足りないんじゃないかい」と言われた。「愛ってなんだろう?」未だよくわからず、微生物群集の培養瓶を見つめる。

東北大学サイエンス・エンジェル

～女性研究者支援モデル育成～

サイエンス・エンジェル(SA)の最新情報はコチラからご覧いただけます!
http://tumug.tohoku.ac.jp/blog/category/sa_event/

東北大学サイエンス・エンジェル(SA)とは次世代の研究者を目指す小中高校生に「こんな女性研究者もいるんだ!」「科学って楽しい!」という思いを伝えるために結集した、東北大学の女子大学院生です。女性研究者のロールモデルとしてセミナーやイベントに参加し、科学(自然科学・人文科学・社会科学)の魅力・研究のおもしろさを伝えています。2021年度は65名のSAが任命され、6月6日(日)にオリエンテーションがオンラインで行われました。これまでに「東北大学サイエンス・エンジェルnote」(note)、「女子大生の日記念 第8回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞 授賞式・講演会」(オンラインイベント)、「片平まつり2021・東北大学サイエンス・エンジェル研究紹介 片平キャンパス編」(オンラインイベント)などの活動を行っています。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、TUMUG WebやSNSをご覧ください。

東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL. 022-217-6092
所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
Mail office@tumug.tohoku.ac.jp
WEB http://tumug.tohoku.ac.jp/

Web facebook twitter

「TUMUG」とは、「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。

「紫千代萩賞」受賞者が決定

本賞は、東北大学において優れた研究を展開する女性研究者を顕彰するもので、2017年度に創設されました。これまでに16名が受賞しています。

2020年度 東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者が決定しました。

2020年度は、4分野から各1名、合計4名の受賞が決定。

後列左より 大隅センター長、田中副センター長、羽島人事企画部長、前列左より 鄭准教授、林准教授、大野総長、大坪助教、熊田助教
※役職は撮影当時のものです。

2020年度 第4回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者 決定

第4回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」では、計13名の申請を受け、人文・社会科学分野、理学・工学分野、農学・生命科学分野、医歯薬学・保健分野の4分野から各1名、合計4名の受賞が決定しました。3月1日(月)に国際女性デー記念第4回紫千代萩賞授賞式・受賞講演会授賞式を実施し、受賞者には表彰状ならびに副賞が授与されました。

むらさきせんだいはぎ

人文・社会科学分野

鄭 嬌婷

国際文化研究科 准教授

受賞課題:
脳科学的アプローチによる
第二言語習得研究



私の研究室では、言語習得に注意、記憶、自己認識、感覚運動処理、社会認知等がどのように関わっているのかを、fMRIなどの脳機能計測を駆使しながら、解明しようとしています。例えば、オンラインと対面では外国語の学習に違いはあるのか、母語と外国語が類似していればいるほど外国語の習得が早くなるのか、どのようにすれば効率よく外国語を学習できるのか、等を研究しています。

今後の抱負:

今後ますます外国語の重要性は高まると思います。しかし、全ての人が等しく習得できる母語とは異なり、外国語習得に成功する人とならない人がいます。なぜある人は成功し、なぜある人は成功しないのでしょうか。今後も言語習得の脳内メカニズムを解明する科学的な研究を続けていきます。また、研究成果に基づいて、個別最適化された外国語の教授法や学習法を開発する応用的な研究も行いたいと思っています。そのためには、学内だけでなくとどまらず、国内外の研究者と協働し、文理融合型・学際的研究を推進していく所存です。

農学・生命科学分野

大坪 和香子

農学研究科 助教

受賞課題:
腸内細菌の多様性と機能性および
その有効利用の研究



近年の研究で、肥満、がん、糖尿病、アルツハイマー病などあらゆる疾患に腸管内の微生物が深く関与していることが明らかになってきました。腸内細菌が原因でこれらの疾病が起こるのであれば、腸内細菌を制御することにより、疾病予防や健康改善が可能であると考えられています。私の研究では、農学的視点から、食品に含まれる成分を利用して、腸内微生物の構造や機能を制御する方法(プレバイオティクス)を探っています。ヒトや動物の腸管内の様々な細菌と食品成分の相互作用を解析し、食-腸内細菌-宿主を1本の軸と考えて医学、薬学、工学、獣医学の先生とも共同研究を行っています。

今後の抱負:

研究面では、海外へ行くのが難しい今、日本にいるからこそ実践できるようなユニークな仕事をしたいと思います。教育面では、多様なバックグラウンドを持つ学生さんが東北大学生としてのメリットを最大限に享受できるように環境作り貢献していきたいです。

理学・工学分野

林 久美子

工学研究科 准教授

受賞課題:
非平衡統計力学を用いた
生体内輸送現象の研究



非平衡物理学は、特に電流(電子の流れ)、熱伝導(熱の流れ)や拡散現象(粒子の流れ)など流れがある輸送現象を対象にします。流れがある状態を非平衡状態といいます。これまで無生物に適用されてきた非平衡物理学を、生体内の輸送現象である神経細胞軸索輸送に応用しました。神経細胞は長いもので1mもある軸索を持ち、軸索内をシナプスの材料が輸送されています。生物であっても同じ輸送現象なので、物理学が応用できるのではないかと考えました。輸送が滞れば病気になる。神経細胞軸索輸送の障害はアルツハイマー病、パーキンソン病などの神経疾患と関連します。物理学を医学(神経疾患のメカニズム解明)に役立てたいです。

今後の抱負:

疾患メカニズム解明という医学分野に対して、物理学で挑戦します。前人未踏なので、測定手法や理論に批判も多く、時々心が萎えますが、まだまだ頑張りたいです。

医歯薬学・保健分野

熊田 佳菜子

薬学研究科 助教

受賞課題:
炭素-水素結合官能基化による
直裁的な有機合成反応の研究



我々の生活を支える衣服、医薬品、液晶等の機能性材料といった様々な“もの”(有機化合物)の多くは、石油(炭化水素)から作られています。合成の際に、炭化水素は反応性が低いため、一度反応性の高い化合物(ハロゲン化合物等)へと変換してから、目的の化合物を得る必要があります。私はオキシラジカルや系内発生塩基を使って、この炭素-水素結合を直接目的の結合に変換することによって、ステップエコミー(短工程)・アトムエコミー(原子効率)に優れた様々な有機合成反応を開発しています。

今後の抱負:

多くの人に実際に使ってもらえる有機合成反応を開発することです。2010年にノーベル化学賞を受賞した鈴木先生や根岸先生が開発されたカップリング反応は、現在多くの医薬品や機能性材料の合成に利用されています。私もこのように実際の“ものづくり”で利用される実用性の高い反応を開発していきたいと考えています。また私生活では、昨年末に出産したばかりでなかなか余裕がないのが現状ですので、周りのサポートも受けながら徐々に研究と育児を両立させていければと思っています。

2021年度前期 イベント開催報告

国際女性デー記念 第4回東北大学紫千代萩賞授賞式・受賞講演会

日時: 3月1日(月) 13:30~15:30
開催方法: オンライン 対象: 学内教職員、学生、一般の方

3月1日、国際女性デー記念 第4回紫千代萩賞授賞式・受賞講演会をオンラインで開催しました。紫千代萩賞は、東北大学において優れた研究を展開する女性研究者を顕彰するもので、2017年度に創設され、今年度は、3月8日の国際女性デーを記念したイベントとして開催しました。授賞式の後、受賞者である「人文・社会科学分野」の鄭嬌婷准教授(国際文化研究科)、「理学・工学分野」の林久美子准教授(保健分野)の熊田佳菜子助教(薬学研究科)が受賞講演を行いました。続いて、「半世紀の道程を振り返って」と題し、西澤直子氏(石川県立大学長)による特別講演を行いました。当日は、約100名(関係者含む)の方にご参加いただきました。



女子大生の日記念 第8回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞授賞式・講演会

日時: 8月20日(金) 13:30~15:20
開催方法: オンライン 対象: 学内教職員、学生、一般の方




東北大学は初代総長であった澤柳政太郎により打ち出された「門戸開放」という理念のもと、1913年8月21日、全国に先駆けて女子に東北帝国大学(現・東北大学)の門戸を開きました。2020年、東北大学は、この「8月21日」を「女子大生の日」として登録しました。澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(通称・澤柳記念賞)は初代総長の名前にちなんでおり、男女共同参画社会を目指す活発な取組の一助となるよう、アカデミアにおける男女共同参画の先駆けとして各分野で活躍し多大な貢献をされた方々を選考し顕彰するものです。8月20日、「女子大生の日」を記念し、「第8回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞授賞式・講演会」が開催されました。第1部では、授賞式および本賞受賞の大阪市立大学女性研究者支援室(代表・宮野道雄氏)、奨励賞受賞の濱田真里氏(お茶の水女子大学ジェンダー研究所東アジアにおける政治とジェンダー研究チーム共同研究者・Stand by Women代表者)による受賞講演が行われました。第2部では、東北大学サイエンス・エンジェル(SA)による研究発表が行われ、その後、中高生からの質問にSAが答えました。当日は、119名(関係者含む)の方にご参加いただきました。

2021年度 TUMUG オンラインランチミーティング

日時: 第12回/4月13日(火)、第13回/5月11日(火)、第14回/7月13日(火)、第15回/7月13日(火)、第16回/9月14日(火) 各回12:00~13:00
開催方法: オンライン 対象: 本学研究者、教職員

TUMUG オンラインランチミーティングは、新型コロナウイルス感染拡大防止をきっかけにスタートしました。東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目指し、定期的に開催しています。これまでに17回開催され、毎回40名前後の方にご参加いただいています。

■ プログラム

第12回: 小川 真理子(男女共同参画推進センター 専任准教授) 大隅 典子(東北大学副学長(広報・共同参画担当)/ 男女共同参画委員会委員長/医学系研究科 教授)	第15回: 亀岡 恵理子(経済学研究科 准教授) 志田原 美保(工学研究科 講師)	
第13回: 宇井 美穂子(医学系研究科 助教) 石橋 はる美(工学研究科 教授)	第16回: 佐藤 静香(高度教養教育・学生支援機構 助手) 塩見 こずえ(学際科学フロンティア研究所 助教)	
第14回: 嵩 さやか(法学研究科 教授) 郭 耀元(学際科学フロンティア研究所 助教)	第17回: 山田 亜矢(歯学研究科 准教授) 伊賀 由佳(流体科学研究所 教授)	

片平まつり2021「いまこそ見つめよう 科学のチカラ」

日時: 10月9日(土) 9:00-20:00
開催方法: オンライン開催(YouTube) 対象: 小・中学生、高校生、大学生、一般 科学好きの方、東北大学に興味のある方

10月9日、東北大学の研究所やセンター、史料館を紹介する秋のイベント「片平まつり2021「いまこそ見つめよう 科学のチカラ」」が、オンライン(YouTube)で開催されました。東北大学サイエンス・エンジェル(SA)の企画「東北大学サイエンス・エンジェル研究紹介 片平キャンパス編」では、自身の研究やSAとしての活動、大学生活、片平キャンパス等について発表しました。発表後は、各学部所属のSAとの交流会を通じて、進路選択、研究の魅力や面白さ、ライフスタイル、コロナ禍における研究生活について等、参加者の疑問や相談にお答えしました。SA企画は約130名の方にご視聴いただきました。



「理系女性の人生設計ガイド 自分を生かす仕事と生き方」発刊

大隅典子センター長の著書、「理系女性の人生設計ガイド 自分を生かす仕事と生き方」が出版されました。理系女性は、どんな場所でどのような仕事をして、どのようなプライベートライフを送っているのか、先輩リケジョ達の体験や彼女たちを取り巻く環境がどうなっているかを、レポートします。ぜひ多くの方に手に取っていただければ幸いです。



出版元: 講談社

“Women in History” Online Exhibition

世界遺産、無形文化遺産と並ぶユネスコの三大文化事業のひとつ「世界の記憶」(Memory of the World)では、男女共同参画推進のために “Women in History - Telling HERstory through Memory of the World” プロジェクトが企画され、20の事例が世界から選ばれました。その一つとして、日本から、東北大学が所蔵する女子学生の記録や文書、画像である「Women's Student Record in Higher Education in Japan」が選ばれ、3月8日国際女性デーに開始したオンライン・プラットフォームでの展覧会で世界に発信されました。